

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：34404

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25285100

研究課題名(和文)江戸幕府の金融政策 歴史資料と時系列データに基づく理論的・実証的分析

研究課題名(英文) Monetary Policy of Tokugawa Shogunate: Empirical and Theoretical Analysis based on Historical Evidence

研究代表者

高橋 亘 (TAKAHASHI, Wataru)

大阪経済大学・経済学部・教授

研究者番号：70327675

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀から幕末の約150年間に、江戸幕府が打ち出した金融政策について、その効果を分析した結果、江戸幕府は政策立案・運営・実行に当たり、市場参加者と綿密なコミュニケーションをとっていたこと、とりわけ米価を上昇させるための政策においては、それが政策にプラスの効果をもたらしていたことが、時系列データに基づく計量分析によって明らかにされた。しかし、これは政策発動を繰り返していくなかで、江戸幕府が学習したことであったことも、歴史資料の分析により明らかになった。

研究成果の概要(英文)：One of the achievement of this research project is to find the “learning process” of the Shogunate through implementing economic policy. Through the Tokugawa period (1603-1867), the Shogunate often intervened the market to keep the rice price stable, based on his absolute authority. We find three phases of the market interventions during the period from the mid-18th to the early 19th century. First, the Shogunate conducted the large-sized intervention in the way ignoring the market participants, but had to abandon it. Second, in the wake of this failure, the Shogunate conducted small-sized interventions in the way just following the arguments of the market participants, which were not so effective. Finally, the Shogunate achieved the policy goal by the commitment with large-sized interventions as one of the communication tools to convey his intention to the market participants.

研究分野：金融・ファイナンス、財政・公共経済

キーワード：経済史 経営史 日本史 金融史 金融・ファイナンス

1. 研究開始当初の背景

この研究プロジェクトが開始された時点(平成25年4月)もそして現在も、日本経済が直面する最大の課題はデフレを伴う経済停滞である。政策当局はこれに対処する一方で、自由化政策が許した金融市場の暴走を前に、新たな政策設計を迫られている。

リーマンショック以降、世界的な政策課題となったこの問題が、江戸時代において既に顕在化していたことは、一部の経済史研究者の間では知られていた。しかし、実証的な検討は不十分であったため、ここに資源と時間を投下して分析のメスを入れる必要があると考えたことが、本研究プロジェクトの背景である。

2. 研究の目的

市場の働きを尊重しつつ、これを制御する。この難しい課題に、経済学も、学ぶべき先例も無く挑んだ江戸時代の人々の経験を、実証的に分析し、現代に伝えること。これが本研究プロジェクトの目的である。

具体的には、18世紀から幕末の約150年間に、江戸幕府が打ち出した金融政策を、当時の市場データを駆使しながら、実証的に検討することを目的として掲げた。

3. 研究の方法

18世紀から幕末の約150年間に、江戸幕府が打ち出した金融政策を対象として、政策に込められた意図と政策発動の経緯を歴史学的に復元し、政策を巡って交わされた当時の議論と、当時の人々の認識を理論モデル化し、期待された政策効果の整合性と妥当性を評価する。そして、18世紀中葉から明治初年までを網羅する、約100年にわたる日次の市場データを用いた時系列分析により、政策意図を踏まえた上で、短・中・長期的な政策効果を評価する。

4. 研究成果

本研究プロジェクトの成果の内、主なものとしては以下の2点が挙げられる。

第一に、18世紀から幕末の約150年間に、江戸幕府が打ち出した金融政策について、その効果を分析した結果、江戸幕府は政策立案・運営・実行に当たり、市場参加者と綿密なコミュニケーションをとっていたこと、とりわけ米価を上昇させるための政策においては、それが政策にプラスの効果をもたらしていたことが、時系列データに基づく計量分析によって明らかにされたことである。

また、政策を繰り返していく中で江戸幕府が学習してきたことも、歴史資料の分析により明らかになった。

18世紀前半の江戸幕府は、市場参加者に対して極めて高圧的に臨んでいた。例えば米価を上昇させるために、市場参加者に対して取引米価の下限を強制したり、あるいは現金を恫喝まがいの方法で徴収して、米市場に再投下したりするなど、市場参加者の意向を無視した政策を繰り返していた。

しかし、こうした方法では思うような成果

が上がらないとみた江戸幕府は、市場参加者、とりわけ豪商と呼ばれるキープレイヤーとの対話を重視するようになり、政策の立案・実施の過程において、彼らの意見を採り入れるようになった。その結果、市場を混乱させることなく、米価を上昇させることに成功した。

このような江戸幕府の学習過程は、これまで全く見落とされていたことであり、また国際的にも、前近代社会にあって市場参加者との対話を重視した政策主体は希有であるため、国際的文脈においてもインパクトのある研究成果と言える。

第二の研究成果は、江戸幕府が政策変数として注視した米価を左右した最大の要因とも言える、気象変動との関係を解き明かしたことである。

米納年貢制の下、コメ作りが全国的に行われていた上、閉鎖経済・農業経済であった江戸時代経済は、コメの生産高によって大きく左右される経済であったと言える。

しかし、これまでコメの生産高に影響したと考えられる気象変動について、信頼できるデータが得られなかったため、計量的な分析は進められないままだった。

本研究プロジェクトでは、総合地球環境学研究所(京都市)の進めるプロジェクト「気候適応史プロジェクト」と連動することにより、江戸時代の気温および降水量に関するデータ提供を受け、米価との関わり、そして江戸幕府の政策対応との関わりを分析する基盤を構築した。

その結果、江戸時代の中央市場・大坂米市場は、局地的な異常気象(洪水、旱魃など)の影響を平準化することに成功していたと評価できる一方、帯状に発生する異常気象(冷夏など)については平準化することができず、米価が高騰する局面があったことが明らかになった。

後者の典型的な事例が天明の飢饉(1780年代)および天保の飢饉(1830年代)であり、大坂米価が高騰し、江戸幕府が政策対応に追われた時期であった。

江戸時代の気象と経済を巡る実証分析、および江戸幕府の政策対応(飢饉対策など)については、今後もさらに分析を深めていく必要があるが、本研究プロジェクトが整備した江戸時代の時系列データ(米価など)と、年次あるいは月次のレベルで提供される気象データ(気温、降水量)は、国際的にもインパクトのあるデータセットであり、強力な研究基盤となることは間違いない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

高橋亘、第三者検証で日銀は独立性を取り戻せ(出口の迷路:金融政策を問う) 八

コノミスト、査読無、96 巻 2 号、2018、70-71

高槻泰郎、金納御手伝普請をめぐる熊本藩の対幕府交渉記録 天明八年「御用金一件」について、永青文庫研究、査読無、1 号、2018、55-74

K. Nakashima, M. Shibamoto and K. Takahashi, Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks, RIEB Discussion Paper Series, 査読無, No. DP2017-05, 2017, 1-46
<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/academic/ra/dp/English/DP2017-05.pdf>

廣岡家研究会（高槻泰郎、村和明、宮本又郎、酒井一輔、小林延人、結城武延、倉林重幸、芹口真結子）、廣岡家文書と大同生命文書 大坂豪商・加島屋（廣岡家）の概容、三井文庫論叢、査読無、51 号、2017、303-394

高槻泰郎、三都をまたにかけた対幕府交渉、三井文庫論叢、査読無、2017、148-149

高槻泰郎、近世日本における相場情報の通信技術、電子情報通信学会誌、査読無、100 巻 9 号、2017、987-991

高槻泰郎・藤尾隆志、相場師に利用された相場表 自天保元年至明治三十四年定期米高低表、大阪春秋、査読無、161 号、2016、108-111

高槻泰郎、近世大坂米価の再検討 「米年度」概念の提起、経済史研究、査読無、19 号、2016、25-39

M. Shibamoto, Source of Underestimation of the Monetary Policy Effect: Re-examination of the Policy Effectiveness in Japan's 1990s, The Manchester School, 査読有, Vol.84 Issue 6, 2016, 795-810

M. Shibamoto, Empirical Assessment of the Impact of Monetary Policy Communication on the Financial Market, RIEB Discussion Paper Series, 査読無, No. DP2016-19, 2016, 1-42

高槻泰郎、江戸時代の物価統計、ESTRELA、査読無、No.225、2015、22-27

高槻泰郎、近世中後期大坂金融市場における「館入」商人の機能、日本史研究、査読有、2 巻、2014、91-107

M. Shibamoto and Yasuo Takatsuki, Macroeconomic Policy with Financial Market Stability: A Case Study of the Early 19th Century in Japan, RIEB Discussion

Paper Series, 査読無, No. DP2014-16, 2014, 1-19

宮本又郎、上方商家の家訓、大阪商業大学商業史博物館紀要、査読無、15 巻、2014、2-32

高槻泰郎、近世日本の相場指南書 大坂米市場を素材として、国民経済雑誌、査読無、208 巻、2013、65-79

〔学会発表〕(計 28 件)
W. Takahashi, Abenomics and the Bank of Japan, Austraria-Japan Research Centre (AJRC) Seminar, 2018

柴本昌彦、近世日本の気候変動と中央市場、第 6 回人文学オープンデータ共同利用センターセミナー、2018

中島清貴・柴本昌彦・高橋耕史, Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks, 経済学部ファカルティセミナー, 2017

高橋亘、日本の金融部門の転換：市場経済化の視点 高度成長期から失われた 20 年まで、泡沫経済的中日比較と金融体系安全国際研討会、2017

高橋亘, Central Bank Independence under the changing environment, Europe and Japan: Monetary policies in the age of uncertainty, 2017

高橋亘、アベノミクスの問題、神戸大学経済経営研究所公開シンポジウム「アベノミクス再考：グローバル日本の金融・財政政策」、2017

高槻泰郎、江戸時代大坂の金融業ネットワーク 大名の資金調達を素材に、金融学会 2017 年秋季大会、2017

高槻泰郎、近世日本の市場経済と「制度」、法制史学会東京部会第 267 回例会、2017

高槻泰郎、近世日本の中央市場と気候変動、社会経済史学会第 86 回全国大会、2017

中島清貴・柴本昌彦・高橋耕史, Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks, マクロ金融ワークショップ, 2017

柴本昌彦、低金利下における金融政策効果、応用マクロ・金融ワークショップ、2017

高槻泰郎・柴本昌彦, Communication with market participants for macroeconomic

policy: Empirical assessment using data in early modern Japan, 金融学会歴史部会, 2016

高槻泰郎、近世日本の商秩序 大坂金融市場を素材として、法制史学会シンポジウム、2016

高槻泰郎、近世日本における領主金融 大坂金融市場を中心に、神戸大学金融研究会、2016

中島清貴・柴本昌彦・高橋耕史, Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks, 日本経済学会 2016 年度秋季大会, 2016

柴本昌彦, 江戸時代経済に関するマクロ時系列分析, RoMacS Workshop 2016, 2016

M. Shibamoto, Monetary Policy under a Low Interest Rate: Japan's Experience, Financial and real interdependencies volatility, inequalities and economic policies, 2016

Y. Takatsuki, Macroeconomic Policy with Financial Market Stability: The Case of Japan's Early 19th Century, The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, 2014

高槻泰郎, Communication with Market Participants for Macroeconomic Policy: Empirical Assessment using Data in Early Modern Japan, 現政研セミナー, 2015

Y. Takatsuki, The State and Economic Development in Early Modern Japan and China: Continuity and Discontinuity, World Economic History Congress in Kyoto, 2015

②① 高槻泰郎, The Microstructure of the First Organized Futures Market: The Dojima Security Exchange from 1730 to 1869, Workshop on "Mathematical Finance and Related Issues", 2015

②② 柴本昌彦, Communication with Market Participants for Macroeconomic Policy: Empirical Assessment using Data in Early Modern Japan, 日本銀行金融研究会, 2015

②③ Y. Takatsuki, Property Rights Protection in 18th century Japan Revisited: the Case of Rice-Backed Security Exchange Market, World Economic History Congress in Kyoto, 2015

②④ 高槻泰郎, Macroeconomic Policy with Financial Market Stability: The Case of Japan's Early 19th Century, 日本経済学会 2014 年度春季大会(柴本昌彦との共同報告), 2014

②⑤ 高槻泰郎, Macroeconomic Policy with Financial Market Stability: The Case of Japan's Early 19th Century, 小樽商科大学土曜研究会(経済学研究会)(柴本昌彦との共同報告), 2014

②⑥ 高槻泰郎, Communication with Market Participants for Macroeconomic Policy: Empirical Assessment using Data in Early Modern Japan, Policy Modeling Workshop, 2014

②⑦ 高槻泰郎、近世中後期大坂金融市場における「館入」商人の機能、日本史研究会大会、2013

②⑧ Y. Takatsuki, Informational Efficiency under the Shogunate Governance: Concentration and Integration of the Rice Market in Tokugawa Japan, 7th World Congress of Cliometrics, 2013

〔図書〕(計 5 件)

宮本又郎・高槻泰郎・柴本昌彦 他著(深尾京司・中村尚史・中林真幸)、岩波講座日本経済の歴史第 2 巻 近世 16 世紀末から 19 世紀後半、岩波書店、2017、全 306 頁(宮本又郎 239-282 頁、高槻泰郎・柴本昌彦 105-147 頁)

柴本昌彦、安部経済学と中日経済関係、人民出版社、2016、全 331 頁(182-207 頁)

高槻泰郎 他著(藤田覚編)幕藩制国家の政治構造、吉川弘文館、2016、全 332 頁(126-152 頁)

宮本又郎・高槻泰郎 他著(経営史学会編)日本経済評論社、経営史学の 50 年、2015、全 412 頁(宮本 62-71 頁・高槻 75-82 頁)

高槻泰郎 他著(稲葉継陽・今村直樹編)吉川弘文館、日本近世の領国地域社会 熊本藩政の成立改革展開、2015、全 307 頁(79-110 頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日：
国内外の別：
取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

本研究プロジェクトを進めていくなかで整備された江戸時代の経済データを、一般方にも分かりやすい形で提供したデータベース、「近世経済データベース」(<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/project/kinsei-db/>)を公開した。

研究プロジェクトの成果の一部を、公開講座「豪商たちの近世・近代」(2015年11月9日、神戸大学出光佐三記念六甲大講堂)の形で公開した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 亘 (TAKAHASHI, Wataru)
大阪経済大学・経済学部・教授
研究者番号：70327675

(2) 研究分担者

上東 貴志 (KAMIHIGASHI, Takashi)
神戸大学・計算社会科学研究センター・教授
研究者番号：30324908

宮本 又郎 (MIYAMOTO, Matao)
大阪大学・経済学研究科(研究院)・教授
研究者番号：50030672

高槻 泰郎 (TAKATSUKI, Yasuo)
神戸大学・経済経営研究所・准教授
研究者番号：70583798

柴本 昌彦 (SHIBAMOTO, Masahiko)
神戸大学・計算社会科学研究センター・准教授
研究者番号：80457118

(3) 連携研究者

村 和明 (MURA, Kazuaki)
公益財団法人三井文庫・社会経済史研究室・主任研究員
研究者番号：70563534

(4) 研究協力者

木成 勇介 (KINARI, Yusuke)